

西尾勝 著作目録

まえがき

私は、平成一八（二〇〇六）年三月末日をもって国際基督教大学大学院教授を退職し、昭和
三六（一九六一）年四月から東京大学法学部で三八年、平成一一（一九九九）年四月から国際
基督教大学で七年、通算四五年に及ぶ大学教員生活に終止符を打った。この間には、多くの先
生方、先輩諸氏から暖かいご指導を受け、さらに多くの学会の同僚、後輩、門下生の諸君たち
からも絶えざる刺激や示唆を与えられてきた。そこで、これまでにお世話になったこれらの方々
に私のささやかな感謝の意を表し、私の大学教員生活に一つのけじめをつけておきたいと考え、
ここに私の略歴と著作目録とを編纂し、お届けすることにした。

略歴の編纂に当たっては、他大学への非常勤講師としての出講は私の教育歴を正確に記録し
ておく趣旨で、煩雑を厭わずできるだけだけ漏れなく記載するように努めた。これに対して、国、
都道府県、市区町村の審議会等への参加については、私の著作等に深く関連しているものにて
きるだけ限定した。その結果、審議会委員等の委嘱を受けた事実の多くが省略されている。こ
とに地元の東京都武蔵野市では審議会等のほかに、実に多種多様な市民委員会、市民会議、
市民団体等に参加してきたのであるが、この地元での市民活動の側面についてはその極々一端

を記載しているにすぎない。また、大学内での役職については管理職に相当する役職に限定し、学会での役職についても会長・理事長等の代表者に相当する役職に限定した。

私は遅筆で、著作等の点数は決して多くないので、これらの著作等が刊行された時点で逐一記録に残してきた。そこで、このたび編纂した著作目録には、文章の長短、内容の軽重を問わず、私のほとんどすべての著作等をほぼ漏れなく掲載している。この種の著作目録に通常は登載されない、複数のメンバーによる共同研究や共同審議の成果である研究報告書や懇談会提言書の類まで敢えて登載した。これは、私の専攻分野が行政学・都市行政学という、学問と実務、思索と実践とが切り離しがたく結びついている分野であったこともあって、私の研究者としての生涯ではこれらの研究会や審議会等における言論活動が相当に大きな比重を占めてきたこと、そしてこれらの場での体験が私の学問的な著作にまで深く影響していることを、強く自覚しているが故である。

ところで、これらの研究報告書や懇談会提言書では、その各部の執筆者名を明記していることはむしろ稀である。そこで、各部の執筆者名が明記されていない場合には、これらの研究報告書や懇談会提言書の標題の直後にカッコ書きで、原案執筆、分担執筆、共同執筆、研究参加、審議参加等々の注記を付し、これらの成果に対する私の関わりの深淺の度合いを示しておいた

が、原案執筆と分担執筆と共同執筆を区別している基準、あるいは研究参加と審議参加を区別している基準は何かと問われると、これに厳密に回答することは率直に言ってむづかしい。みづからがそこで果たした役割に対する主観的な自己認識の微妙な差異を表現しているものと、大様に受け取っていただければ幸いである。

末筆になってまことに恐縮であるが、この著作目録の刊行に際しては、長年の友人である新藤宗幸君が印刷製本会社との折衝を初めすべての手配を担当してくださった。また私の市民的实践において生涯の師範と仰ぐ松下圭一氏の令夫人、松下黄沙さんがその作品をこの著作目録の表紙の装面に使うことをお許しくださった。この上ない光栄で、身の縮む思いである。面氏のいつに変わらぬご厚誼に改めて衷心より感謝申し上げる次第である。

二〇〇六年七月

財団法人・東京市政調査会理事長

西尾 勝